

議長		副議長		局長		補佐		係長		係員	
----	--	-----	--	----	--	----	--	----	--	----	--

令和 7 年 8 月 4 日

多賀城市議会 議長 殿

会派名 自由民主党多賀城市議団

代表者名 米澤 まき子



調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

1 報告者（参加者）

- | | | | |
|------------|--|-----------|--|
| (1) 千葉 文昭 | | (5) 大場 和晃 | |
| (2) 鈴木 新津男 | | (6) 本間 圭 | |
| (3) 佐藤 雅博 | | (7) _____ | |
| (4) 大内 裕太 | | (8) _____ | |

2 調査研究の概要

- 調査期間：令和7年7月30日（水）～令和7年7月31日（木）
- 調査目的：移転合築予定の総合体育館・市民プールについて先進施設から資を得る
- 調査手法：視察調査
- 行程又は日程：添付行程表のとおり
- 調査先及び調査事項

調査日時	調査先	調査事項及び現地視察の有無
30日（水） 13:30～15:00	千葉県千葉市 千葉公園総合体育館	① スポーツ施設、防災拠点としての機能 ② 現地視察
31日（木） 09:50～10:30	茨城県神栖市 かみす防災アリーナ	① スポーツ施設、防災拠点としての機能 ② 現地視察

- 調査資料：別紙1のとおり

3 調査の概要

別紙2のとおり

4 所感（今後の市政に資する点）

別紙2のとおり



宮城県多賀城市議会 会派行政視察等 行程表
 < 研修、調査研究、要請・陳情 用 >

会 派 名「自由民主党多賀城市議団」

■日 程：令和7年 7月30日（水）～ 7月31日（木）

日 程	行 程
<1日目> 7月30日 （水）	多賀城駅発→（JR仙石線）→仙台駅→（東北新幹線）→東京駅 →（JR総武線）→千葉駅→（レンタカー）→千葉公園総合体育館 （13:30～15:00）→（レンタカー）→ホテル着
	■宿泊 ・フレックスステイイン鹿島セントラル （茨城県神栖市大野原4-7-1 電話0299-95-5511）
	■調査事項等「千葉公園総合体育館」 1. スポーツ施設、防災拠点としての機能について 2. 従来型分離発注方式を採用した理由、良い点・問題点について
<2日目> 7月31日 （木）	ホテル発→（レンタカー）→かみす防災アリーナ（09:50～10:30） →（レンタカー）→千葉駅→（JR総武線）→東京駅→（秋田新幹線） →仙台駅→（JR仙石線）→多賀城駅
	■調査事項等「かみす防災アリーナ」 スポーツ施設、防災拠点としての機能について ※ 津波警報（7月30日カムチャッカ半島地震）の影響によりアリーナ 関係者からの案内説明受けは中止となり、自由見学となった。

調査資料

1 千葉公園総合体育館

(1) 調査先作成資料

- ア 付紙1「YohaSアリーナ～本能に感動を。～(千葉公園総合体育館)の概要について
- イ 付紙2「行政視察(YohaSアリーナ)視察調査事項

(2) 全般説明



(3) 対応してくれた千葉市職員



(4) 安い利用料金



一例：トレーニング室 大人220円、高校生100円

1 千葉公園総合体育館

(5) デザイン性の高い建物



外観



曲面屋根

2 かみす防災アリーナ

(1) 充実した防災機能



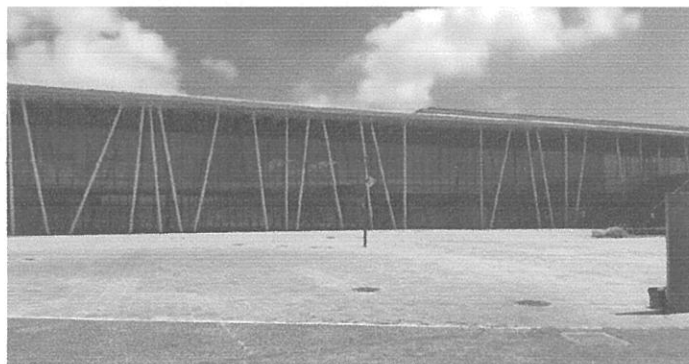
井水貯水槽(80t)



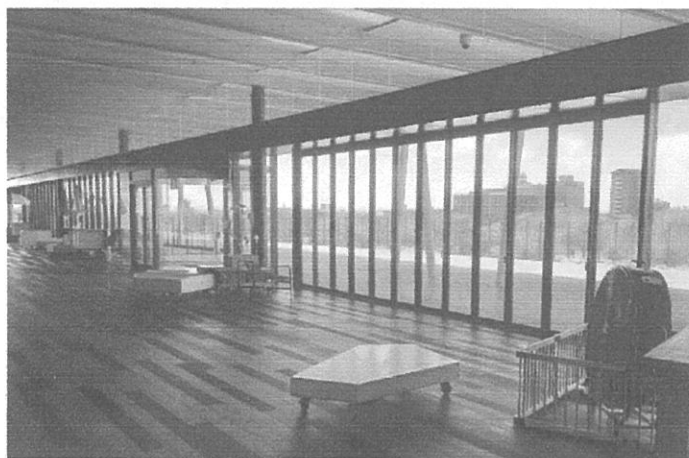
防災トイレと手押しポンプ(防災井戸)

2 かみす防災アリーナ

(2) 南面全体がガラス窓



外から見たガラス窓



内から見たガラス窓



ロビーや廊下のあちこちに
設置された大型扇風機

1 調査の概要

(1) 多賀城市では、老朽化が著しい総合体育館と市民プールの合築移転を計画していることから、自民党多賀城市議団では関東地方に所在する先進施設（体育館）の視察調査を行ない、次の事項等について現地で確認した。

- ① 設計～施工～運営開始の事業スケジュール ② 財源
- ③ 指定管理料 ④ 施設のコンセプト
- ⑤ スポーツ施設・レクリエーション施設としての機能 ⑥ 防災拠点としての機能
- ⑦ 事業手法(従来型分離発方式・PFI方式)
- ⑧ デザイン性の高い建物であることの利点・欠点

(2) 1日目の「千葉公園総合体育館」は、千葉市職員と指定管理者から現地案内・説明を受けることができ計画通りの視察調査ができた。

(3) 2日目の「かみす防災アリーナ」は、7月30日発生したカムチャッカ半島地震による津波警報のためアリーナ関係者による現地案内・説明は中止となり、自由見学となった。防災アリーナの名称の通り、屋内外のあちこちに防災関連施設が整備され、それぞれの施設に説明看板があったことから案内・説明がなくても、防災拠点としての機能が非常に充実されていることが確認できた。

2 所感

(1) 千葉公園総合体育館

ア 3階建てで様々なスポーツ施設を積層させ体育館をコンパクトに集約配置（1階には柔道場・剣道場・弓道場・トレーニング室等、2階にはバスケットコート2面分のメインアリーナ、1面分のサブアリーナ、3階には観覧席（1,052席））とすることで、駐車場が最大限確保され、屋外スポーツ空間も創出される等、敷地が有

効に活用されていた。

イ 指定避難所ではないが、帰宅困難者等を受け入れる一時滞在施設に指定されており、太陽光発電や72時間稼働できる非常用発電設備、井戸、マンホールトイレが備えられており、防災機能もある程度整備されていた。

多賀城市では東日本大震災の際、津波で浸水した砂押川以南地区の住民や工場地帯等で仕事中に被災したり、R45・産業道路を通行中に被災した市外住民が文化センターに集中し3千名を超えた実績があるが、将来的には新総合体育館が文化センターに代わる避難者の受け皿になると考えられるので、防災機能の充実は必須と考える。

ウ 設計～施工～運営開始の事業スケジュールの中で特に重要なのは、利用団体（市内の各種スポーツ協会等）と事前に利用形態や設置備品についての綿密な調整とのことであった。

エ トレーニング室には多種多様な機材があるが、使用料は2時間220円であり、その他のスポーツ施設の利用料も割安に感じられた。利用者が多い（年間20万人以上）のは納得できた。

(2) かみす防災アリーナ

ア 神栖中央公園という広大な公園（芝生広場を活用した臨時駐車場を含めると約2千台駐車可能）の一角にある巨大なアリーナであり、多賀城市の新総合体育館とは規模や環境は全く違うが、防災機能の充実に関しては大いに参考にすべきところがあった。

（防災備蓄品倉庫、防災トイレ、自家発電機、防災用井戸、貯水槽などの防災施設が屋内外のあちこちに点在しており、防災アリーナの名に恥じない機能を保有していた。特に水は11,000人×3日分、その他プールの水を生活用水として使える

とのことである。)

イ 建物の南面は、ほぼ全面がガラス窓で日当たりが良く開放的ではあるが、夏場は暑そうに感じた。その証拠にロビーや廊下のいたるところに大型扇風機が設置されていた。全面ガラス窓はおしゃれな感じがするが、暑さ問題もあるようであった。